

校長室だより～和光高校今昔 第39号 H27.1.30

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

集団宿泊研修（勉強合宿）の思い出

仲尾学年の暴走？は3年になっても続いた。正確には一旦途切れたものが修学旅行での成功体験によって新たな「思い付き」につながったと言った方が良いかもしれない。今回の「やっといて～」の対象は大熊徳明教諭、進路主事として大いに辣腕をふるい名言を連発している。「怠け者には明日はない」「選択時代にババを引かない」等、集会での講話や

いくつものプリントを用い生徒にインパクトを与えるとともに、実直誠実な人柄は教員生徒から絶大な信頼を得ていた。

「勉強合宿してみようか?」。何たる慧眼であったか! 20年後に大宮高校、越谷北高校など名だたる進学校が企画する行事を和光高校がその先覚者として行うとは! 今思えば『必携』から見つけ出したことなのだろう。確かに「校外行事の実施基準」では、年一回に限り2泊での集団宿

泊研修の実施が許されている。しかしこの学年、1年の「スキー」で懲りているのではなかったか。修学旅行と合わせ3年連続で泊を伴う行事を行うとは……

結局6月27・28日の2日間（1泊のみ）の日程で行先は富士河口湖、スバルランド沿いに立つロッジがその場所選ばれた。研修施設が整っていることとさすがに3回目なので極めて安価なことがその条件であった。



当時の生活担当であった齋藤清貴教諭はPTAだよりで次のように報告している。

「(進路意識がなかなか高まらない生徒たちに、学年主任発案の宿泊研修が計画された)富士山ろくの広大な緑深き大自然の中「富士スバルランドロッジ」で宿泊研修が実施された。

1日目はバスで富士山五合目まで登った。梅雨の



真最中にもかかわらず晴れてすがすがしい気分になることができた。午後からは早速研修、就職・大学短大・専門学校への3つに分かれ行われた。就職グループは適性検査の練習、大



広間の畳敷きの場所でありかなりの混乱が予想されたが、真剣で緊張感の中鉛筆の走る音だけが聞こえた。大学短大グループは英数国の講義。入試問題からの授業は、日ごろ不勉強な者にとってはちんぷんかんぷんと思われる、逆に物足りなさを感じる生徒もいたようだ。専門学校グループは、分野別に分けられ、各専門学校から講師を招き模擬授業を展開。畳の上での調理実習など奇抜なものもあったが生徒たちは興味深く授業に参加した。

夕食後も3つに分かれての研修が続く。引率責任者であられた原昌彦教頭先生の講話、卒業生である大学生を交えてのディスカッション、専門学校選択のアドバイスなどどれも大変有意義な内容で8時過ぎまで行われた。

2日目は、クラスごとに面接・作文・漢字・英数の課題など過密なスケジュール。特に面接練習での生徒の緊張した顔は絶対に忘れることはできない。答えも「貿易摩擦」から「中江某と倉田まり子」まで幅広く、こちらが吹き出しそうなものもあった。県下で初の試みという事で我々も暗中模索のまま実施したが、今回の反省の上に立ち次回はより充実した内容にしたい。一人でも多くの生徒達が希望進路の実現ができるよう、今後の学校生活でも指導を重ねたい。」



実は、本行事は生徒からも保護者からもとても好評であった。そしてこの学年はそれまで以上の成果を進路面で挙げることはできた。しかし翌年以降再び行われることはなかった。またしても不祥事が起きたのだ。出発してからのボヤ騒ぎ……ここまですべて勘弁してください。またしても団結の強まる学年団と、これ以降さらに引き締まった昭和60年、12期生の思い出でした。